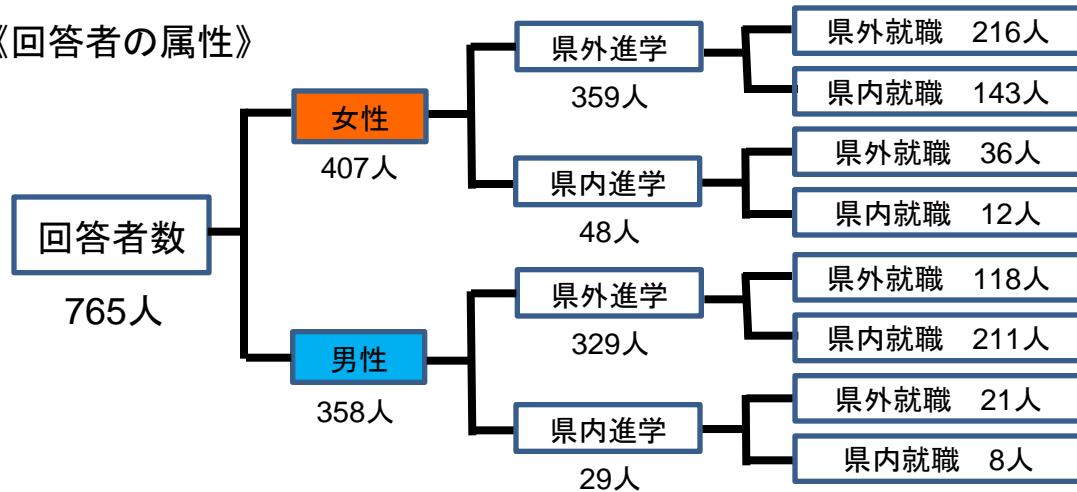


# 若者のUターンの意向調査 結果概要

東京大学「希望学プロジェクト」との共同により、県内外の若者に対してUターンの意向等を調査

- (1) インターネット調査 (調査期間 H26.9~H26.11)  
 目的：進学、就職、Uターンに関する意向を調査  
 対象：県内外に在住する本県出身の20~30代の男女  
 回答数：765人 (県内374人、県外391人) (約2,500人に調査)

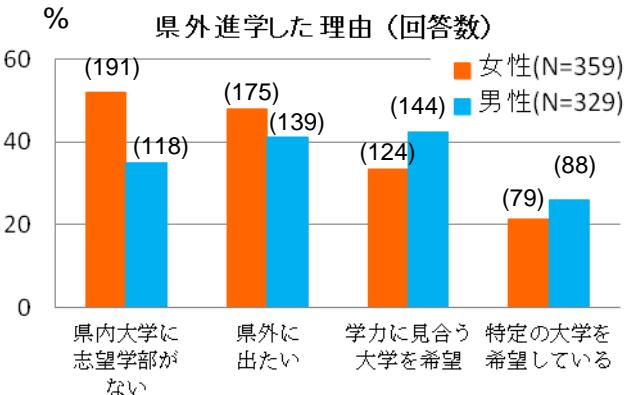
## 《回答者の属性》



- (2) インタビュー調査 (調査期間 H26.10~H27.2)  
 目的：上記調査の補足として、首都圏在住女性に調査  
 対象：首都圏に在住する本県出身の20~30代女性  
 回答数：102人

## 【1 県外進学者の動向】

### (1) インターネット調査



- 女性は、県内の大学に希望する学部 (人文系など) がないため県外に出た、という人が多い
- 男性は、学力に見合う大学に入学するため県外に進学した、という人が多い

### (2) インタビュー調査

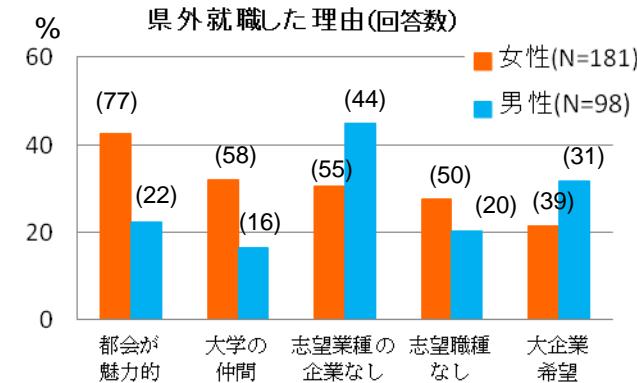
- 秋田国際教養大学のような特徴がある大学は魅力的
- 都内の大学との単位互換ができれば県内大学も選択肢に入る

### (3) 調査結果からわかること

- 奨学金や学費の支援、家賃の助成など、経済的負担の軽減が有効
- 県内進学を促すためには、県内大学に際立った特色が必要
- 学部の拡充や都市部の大学との連携等のニーズへの対応が必要

## 【2 県外就職者の動向(就職理由)】

### (1) インターネット調査



- 女性は、都会の魅力や大学の仲間がいるため県外就職した、という人が多い
- 男性は、県内に希望する業種の企業がないため県外に出た、という人が多い

### (2) インタビュー調査

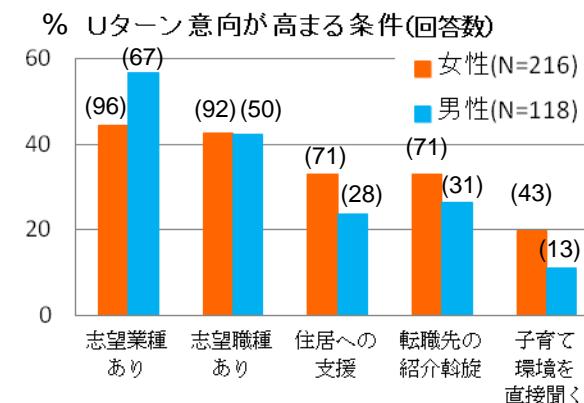
- 福井の企業の具体的な仕事内容がわからない
- 幅広い職種・地域で男性同様にキャリアを積むことを望んでいる
- 大卒女性に適した総合職に就きたいが、県内には少ない

### (3) 調査結果からわかること

- 具体的な仕事内容に関する情報提供が不足
- 女性が希望する業種や職種の企業の誘致が必要

## 【3 県外就職者の動向(Uターン意向)】

### (1) インターネット調査



- 男女とも、希望する業種や職種があるかどうかをUターンの条件として重視
- 女性は、男性に比べて子育て環境の良さを求める人が多い

### (2) インタビュー調査

- 福井にUターンすると仕事や生活がどう変化するか不安を感じる
- 30代になると、大学時代の友人との縁も薄くなるので、福井の男性と結婚し子育て環境の良い福井にUターンしたい

### (3) 調査結果からわかること

- 移住により収入や居住環境がどう変わるか、具体的な提示が有効
- 結婚も30代前半のアプローチが有効